

# 稲作現地研修会資料

平成30年7月2日

J A 新旭町  
高島農業農村振興事務所農産普及課

## 現在の生育状況

- ◎草丈はかなり短く、茎数はかなり少ないが概ね平年並の生育となっている。ただし、移植日やほ場条件により生育の差が大きい。
- ◎生育の遅速は平年並で、「コシヒカリ」では、5月10日移植の幼穂形成期は、7月5日頃と予測されます。

## 管理のポイント

- ◎茎数過多となっているほ場では、玄米品質の低下や倒伏が心配されるので、必ず幼穂を確認して、適期に適量の穂肥を施用します。
- ◎出穂期前後各3週間は常時湛水を行います。水管理はこまめに、無駄な入水がないようにします。

## 1. 気象の経過と予報

### ①気象の経過

5月：気温について、上旬は最高気温が一時低くなりましたが、平年より高く経過しました。日照時間は6～10の間は平年より少なかったもののほかの期間は多く、降水量は平年を上回る時期もありましたが、平年並みとなりました。

6月：気温は5～10の間を除き高めに経過しました。日照時間はやや多く、降水量は平年より少なくなりました。

(※ 梅雨入りは6月4日頃でした。平年6月7日、昨年6月3日)

### ②気象予報

1か月予報(6月25日から7月24日までの天候見通し)

平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、平年並または高い確率ともに40%です。2週目は、平年並の確率50%です。

3か月予報(5月25日発表)

この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

6月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、近畿太平洋側で平年並または多い確率ともに40%です。

7月 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、高い確率50%です。

## 2. 水稻の生育と穂肥の施用

### ①水稻の生育(農業技術振興センター 5月10日植 6月10日調査)

- 移植後、高温で経過したことから、初期生育は順調で分げつ増加速度はかなり早くなりました。
- 草丈は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年よりやや長くなりました。
- 茎数は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並となっています。
- 葉色は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並となっています。
- 葉数は「コシヒカリ」、「秋の詩」とも平年並み～やや多くなっています。

### ②穂肥の施用

#### コシヒカリの品質向上のための穂肥について

- ① 品質低下の原因となる「白未熟粒」を減らすためには、籾数をつけすぎないことと、登熟期の稲の活力低下を防ぐことが大切で、生育に応じて穂肥の施用を行います。
- ② 「コシヒカリ」の穂肥は、2回に分けて施用します。1回につき、10アール当たり窒素成分で2kg(合計4kg)を基本とし、幼穂形成期の生育に応じて穂肥の量、施用時期を変えます。
- ③ 穂肥時期までの生育量が多く、籾数がつきすぎることが予想される際には、後期重点施肥を行います。
- ④ 後期重点施肥を行う基準は、幼穂形成期に茎数が450本/m<sup>2</sup>以上(60株/坪植で25本/株以上)、かつ葉色がSPAD値36以上(葉色4以上)です。(表2)
- ⑤ 茎数が多いほ場では、倒伏が心配されます。幼穂長を必ず確認し、穂肥の施用時期が早くなりすぎないように注意してください。(下記 <参考>)

表1 穂肥施用基準

(窒素成分 kg/10a)

品種名	出穂25日前 (幼穂長1ミリ)	出穂18日前 (幼穂長10ミリ)	出穂11日前
コシヒカリ	—	2	2
秋の詩	2	2	

施用の目安

秋あがり15kg/1回

緩効性肥料は1回目に全量を施用

表2 生育に応じた穂肥の施用

(窒素成分 kg/10a)

品種名	幼穂形成期頃の生育		生育に応じた穂肥施用
	葉色: ()内はSPAD値	株張り	
コシヒカリ	濃い:3.8(35)以上	大	出穂18日前に1kg、出穂11日前に3kg施用する
	薄い:3.8(35)以下	小	出穂20~21日前に2kg、出穂13~14日前に2kg施用する
秋の詩	濃い:4.0(36)以上	大	出穂18日前に2kg、出穂11日前に2kg施用する
	薄い:4.0(36)以下	小	穂肥施用時期を基準より2~3日早める

株張りの基準は、コシヒカリで20本/株、秋の詩で25本/株です

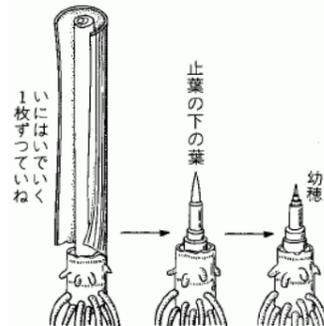
<参考> 穂肥施用の適期

田植時期	品種	穂肥1回目	穂肥2回目
5月1日	コシヒカリ	7月8日頃	7月15日頃
	秋の詩	7月13日頃	7月21日頃
5月15日	コシヒカリ	7月13日頃	7月21日頃
	秋の詩	7月18日頃	7月25日頃

図 幼穂の確認方法



茎をカッターで割る



茎を1枚ずつはがす



幼穂長1mm

※有機質100%の肥料を使用する場合は7日早く施用してください。

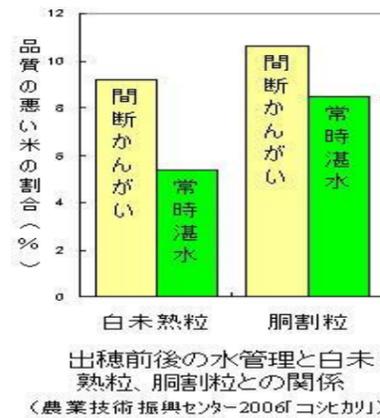
3. 水管理

水稻の穂が出る前後は、一生の中で最も多くの水を必要とする時期です。水が不足すると稲が十分に光合成できず、白未熟粒の発生や籾の充実不足が助長されます。

また、湛水管理はカドミウムの吸収を抑制させることができますので、出穂前後各3週間は常時湛水管理を行いましょう。

湛水管理前の注意！

- ①あぜの穴や亀裂をふさぐ
- ②止水板の高さを高くし、土を寄せる
- ③掛け流しは行わず、計画的に水管理

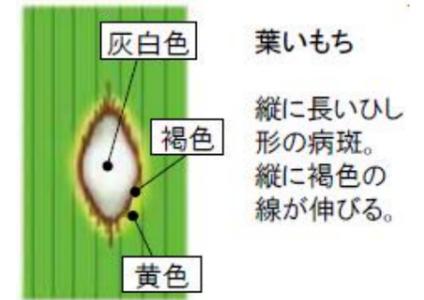


4. 病虫害防除 「病虫害発生予報第5号」(6月21日発表)

葉いもち (発生時期: 平年並、発生量: 平年並)

6月5日に準好適条件となった

- ① 余剰苗周辺から発生しやすいので、余剰苗を早急に処分する。
- ② いもち病に有効な長期持続型の薬剤を育苗箱に施用または移植時に側条施用したほ場では、葉いもち防除の必要性は低いです。
- ③ 多肥田や晩植田、「コシヒカリ」「キヌヒカリ」「秋の詩」「滋賀羽二重糯」では特に発生しやすいので注意します。
- ④ ほ場をよく見回り、発生を認めたら薬剤を散布します。なお、例年いもち病の発生が多いほ場では、発病前に粒剤を散布します。
- ⑤ 耐性菌を生じやすいので、穂いもちの防除も考慮して同一グループ薬剤の連用を避けます。



葉いもち  
縦に長いひし形の病斑。縦に褐色の線が伸びる。

紋枯病 (発生時期: 平年並、発生量: やや多い)

- ① 前年発生の多かったほ場では特に注意します。
- ② 防除の目安は、極早生・早生品種では発病を認めた場合、中生・晩生品種では出穂20日前の発病株率が15~20%以上です。
- ③ 生育の旺盛なほ場で発生が多いので注意します。
- ④ 病勢進展初期(幼穂形成期~穂ばらみ期)に株元までよくかかるように薬剤を散布します。



紋枯病

けい畔2回連続草刈りでカメムシ防除

- ① 出穂2~3週間前と出穂期の2回連続で、けい畔の草刈りを行います。
  - ② けい畔でイネ科雑草の穂を出させないようにします。
  - ③ 地域で話し合い、一斉に行います。
- 出穂3週間前(6月下旬)と、出穂期(7月18日頃)の畦畔草刈りを行い、ほ場へのカメムシの侵入を防ぎましょう。
- 適期の畦畔草刈りと併せて、出穂7~10日後(7月下旬)に薬剤防除を実施しましょう。

